















b (その四)

工場又は事業場の名称	興亜硝子株式会社 市川工場
------------	------------------

(3) 自主的取組実績の評価

ア (1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成22年度以前	平成27年度	令和2年度以降
A	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる(一部に課題がある。)	削減目標を概ね達成できた(一部に課題がある。)	計画年度の目標を概ね達成できた(一部に課題がある。)
C	目標年度の目標の達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考 評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ 課題と対策

(1)計画年度(令和2年度)VOC排出量の削減
① 昨年度の塗料の使用量は、対基準年度(160t)に対して実績使用量は170 tでした。 令和2年度計画(220t)に対して、生産停止等の影響で計画達成となりました。
②VOC排出量につきましては、令和2年度計画(90t)に対して、実績(42t)で計画を達成することができました。
(2)原単位指標でのVOC削減管理：(VOC排出量/塗装通過本数)
令和2年度の前単位指標では、計画10%削減に対して、削減58%で達成することが出来ました。
昨年より社会活動に悪影響をもたらした新型コロナの蔓延により弊社も生産停止を余儀なく強いられ、生産数が大幅に落ち込んでおります。
なお水性塗料での塗装を本格稼働しており、有機塗料使用量の削減及び
塗装ガン設定での塗料吸着効率の向上、塗料余材の削減他も含め
VOCの削減に貢献しております。

備考 この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がCの場合は、必ず記載すること。











(その四)

工場又は事業場の名称	タカラスタANDARD株式会社 千葉第二工場
------------	---------------------------

(3) 自主的取組実績の評価

ア (1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成21年度以前	平成22年度	平成23年度以降
A	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる(一部に課題がある。)	削減目標を概ね達成できた(一部に課題がある。)	計画年度の目標を概ね達成できた(一部に課題がある。)
C	目標年度の目標の達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考 評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ 課題と対策

生産数が対前年102%の伸びに対し、使用量は94%、排出量は102%となった。
使用量は生産数の伸びに対し抑えられたが、排出量は生産数伸びと同等であった。
在庫を持って運用することで色替え頻度を少なくし、使用量は削減できたが、
排出量を削減することができなかった。
今年度(3年度)は十分な在庫を持って運用することで、色替え頻度を少なくし使用量を削減するのに加え、溶剤管理の徹底により排出量削減に努める。

備考 この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がCの場合は、必ず記載すること。















(その四)

工場又は事業場の名称	日鉄鋼板株式会社 東日本製造所 市川地区
------------	-------------------------

(3) 自主的取組実績の評価

ア (1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成21年度以前	平成22年度	平成23年度以降
A	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる(一部に課題がある。)	削減目標を概ね達成できた(一部に課題がある。)	計画年度の目標を概ね達成できた(一部に課題がある。)
C	目標年度の目標の達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考 評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ 課題と対策

ステンレス箔生産設備の一つである脱脂洗浄施設(脱脂クリーニングライン)において溶剤(ジクロロメタン)を使用している。
2017年6月溶剤回収装置の活性炭エレメントを劣化更新して以降、これまでのところ高い溶剤回収率を維持できておりVOC排出量目標を達成できている。

備考 この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がCの場合は、必ず記載すること。

(その三)

工場又は事業場の名称	株式会社日立産機システム 習志野事業所
------------	------------------------

(2) 揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

(1) の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせる場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策 10
1 1	1 2	2 2	2 9	9 4	9 9	9 9			

その他(19, 29, 39, 49, 59, 99)を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

対策4について
塗料調合時のビニール袋保護による容器の洗浄回数低減化を行いました。
対策6について
ワニス・溶剤を多量に使用する製品の製造を終了しました。
対策7について
塗装吊り具の鉤にフッ素コート保護を実施し洗浄シンナー削減を行いました。



(その三)

工場又は事業場の名称	株式会社パールイデア パールデポ関東流通センター
------------	-----------------------------

(2) 揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

(1) の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせる場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策 10
1 9	2 1	2 2	2 3	2 9	3 3	5 2	9 1	9 4	

その他(19, 29, 39, 49, 59, 99)を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

<p>・ コロナ渦の影響により生産が少なく塗装量が減少した為、塗装自体も極力制限し、現状にて出荷することで塗料の使用量も減少。</p>
<p>・ エコラッカー・エコシンナーの使用比率の増大、有害物質の排出を抑制。 労働安全衛生法にも準拠する作業環境を整えている。VOCの排出量はなかなか削減することが困難だが、PRTR物質を中心に特に有害と考えられる物質については大幅に削減効果を得ている。</p>
<p>・ 海外生産品については、入荷時点で現状の出荷が可能になり塗装を行うことが減少し、塗料・シンナーの使用を削減。</p>
<p>・ 同系色の調達により、塗膜の薄化、塗料・溶剤の地容量を削減。</p>
<p>・ 返却時の養生の徹底により、現状出荷が可能になり塗料・溶剤の使用量を削減。</p>

(その四)

工場又は事業場の名称	株式会社パールイデア パールデポ関東流通センター
------------	-----------------------------

(3) 自主的取組実績の評価

ア (1) の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成21年度以前	平成22年度	平成23年度以降
A	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる(一部に課題がある。)	削減目標を概ね達成できた(一部に課題がある。)	計画年度の目標を概ね達成できた(一部に課題がある。)
C	目標年度の目標の達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考 評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ 課題と対策

<p>・コロナ渦の影響の為、昨年より塗料・シンナーの使用量は削減できたものの、業界の特性上、より安全な水性塗料または、弱溶剤性塗料への移行が困難なのが現状です。達成に至りませんでした。</p> <p>今後とも、トルエン・キシレン・エチルベンゼンなど含有しないエコ塗料の使用比率を上げ、環境負担の軽減、健康負担の軽減に尽くしながら、塗料自体の使用量も減らすべく様々な手法を取り入れて参ります。</p> <p>・平成28年の労働安全衛生法の改善に対応し、環境被害・健康被害の抑制に心掛けてまいります。業務遂行の上で、VOC削減が困難な面もありますが、塗料・溶剤をPRTRや特価則に抵触しない組成のものへの転換を図り、その方面では大きな削減率を達成しております。</p>
--

備考 この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がCの場合は、必ず記載すること。



















(その四)

工場又は事業場の名称	アズマプレコート株式会社 市川工場
------------	----------------------

(3) 自主的取組実績の評価

ア (1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成21年度以前	平成22年度	平成23年度以降
A	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
<input checked="" type="radio"/> B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる(一部に課題がある。)	削減目標を概ね達成できた(一部に課題がある。)	計画年度の目標を概ね達成できた(一部に課題がある。)
C	目標年度の目標の達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考 評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ 課題と対策

生産量減少ならびに生産構成が変わってきているため、使用量については減少しておりますが VOC排出量は増加しており、今後の課題と考えております。

備考 この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がCの場合は、必ず記載すること。



(その四)

工場又は事業場の名称	神東塗料株式会社 千葉事業所
------------	-------------------

(3) 自主的取組実績の評価

ア (1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成21年度以前	平成22年度	平成23年度以降
Ⓐ	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる(一部に課題がある。)	削減目標を概ね達成できた(一部に課題がある。)	計画年度の目標を概ね達成できた(一部に課題がある。)
C	目標年度の目標の達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考 評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ 課題と対策

VOC使用量に対する排出量の割合は変わっていないので、溶剤系塗料の生産量により、VOC排出量が影響を受ける。
VOCを使用しない粉体塗料や水系塗料の生産比率を高めることが、VOCの使用量削減につながるので、会社として今後さらにVOCを使用しない塗料の比率を高めるよう努力する。

備考 この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がCの場合は、必ず記載すること。



